



報道関係者各位

バイエル薬品株式会社

参天製薬株式会社

---

自分の近視度数を知っていますか？

## “近視がもつリスク” 認知低く、定期受診している近視の人はわずか

- ほとんど知られていない強度近視の失明リスク
- 近視を矯正している人であっても、自分の近視の度数を把握していない人が多数
- 強度近視の場合は定期的に専門の検査を受けることが重要

---

大阪、2014年11月25日 — バイエル薬品株式会社(本社:大阪市)と参天製薬株式会社(本社:大阪市)は、2014年11月、近視用のメガネやコンタクトレンズを使用している1,000名を対象に意識調査を実施しました。

調査の結果、近視の人の多数が自分の近視の度数を把握しておらず、近視を診てもらうために定期的に眼科を受診している人もわずかであることが明らかになりました。

近視のなかには、度数がマイナス8D(ディオプター)を超える“強度近視”に進行するものがあり、強度近視がさらに進んで“病的近視”になると、近視性脈絡膜新生血管などさまざまな近視性疾患を引き起こし、治療しないまま放置した場合、高度な視力障害や失明に至る可能性もあります\*。今回の調査では、近視の人においても、強度近視という言葉聞いたことがない人が多く、また、強度近視が失明の原因になりうることはほとんど知られていないことがわかりました。近視の人の多くが自分の近視度数を把握していないことや、眼科の定期受診をしていないこと背景には、こうした“近視がもつリスク”に対する認知度の低さがあることがうかがえます。

病的近視の早期発見・早期治療のためには、強度近視やそのリスクについて近視の人の理解を促進し、強度近視の場合は定期受診に対する意識を高めることが重要といえます。

主な調査結果は次のとおりです。

### <近視の人における強度近視の認知度>

[別添資料:②参照]

#### ◆90%以上の人、強度近視が失明の原因になりうるとは思っていない

強度近視という言葉について、聞いたことがある人はわずか 29.3%と、強度近視の知名度は 30%以下にとどまりました。さらに、強度近視が失明の原因になりうることは、90.2%が「知らない」と回答。強度近視は近視の人においてもほとんど知られていないことが明らかになりました。

### <近視の人の近視度数への意識>

[別添資料:③参照]

#### ◆近視を矯正している人でも、自分の近視の度数を把握していない人が 70%以上

自分の近視の度数(メガネやコンタクトレンズの屈折率)を知っているか聞いたところ、「知っている」と回答した人は 26.6%、「知らない」と回答した人は 73.4%でした。今回の調査は近視用のメガネやコンタクトレンズを使用している人を対象としていますが、近視を矯正している人であっても自分の近視の度数を把握していない人が多数であるという実態が浮き彫りになりました。

一方、強度近視が失明の原因になりうることを「知っている」と回答した人においては、自分の近視の度数を「知っている」と回答した人の割合が 46.9%に増加。強度近視の失明リスクを知っている場合は、自分の近視度数への意識が高まるといえます。

### <近視の人の眼科定期受診への意識>

[別添資料:④参照]

#### ◆近視のために定期的に眼科を受診している人はわずか 20%強

メガネやコンタクトレンズの処方を受ける時以外に、近視を診てもらうために眼科を定期受診している人は全体の 21.5%で、“近視のリスク”を意識して通院している人は少数であることがわかりました。

強度近視が失明の原因になりうることを「知らない」と回答した人においては、定期受診している人の割合がさらに少なく(19.3%)、これに比べて強度近視が失明の原因になりうることを「知っている」と回答した人においては、定期受診をしている人の割合が 41.8%と倍以上の結果でした。強度近視の失明リスクについて知らないことが、定期受診に対する意識の低さの一因となっていることがうかがえます。

この調査結果を受け、東京医科歯科大学 眼科学教室 教授の大野京子先生は次のようにコメントしています。「一般に、マイナス 8D(ディオプター)を超える近視は強度近視と定義されます。強度近視は、近視性脈絡膜新生血管のような網膜疾患を引き起こす病的近視の危険因子であるといえます。まずは自分の近視度数を確認し、マイナス 8D 以上の強度近視の方は、病的近視の所見がないか、定期的に専門の眼科で網膜や眼底の検査を受けることが失明リスクの回避に非常に重要です」

## 【調査概要】

調査内容	近視の人の意識調査
調査対象	近視用のメガネやコンタクトレンズを使用している全国の近視の人
有効回答	20代～60代の男女 1,000名
調査時期	2014年11月11日(火)～11月12日(水)
調査方法	インターネット調査

## 【結果詳細】別添資料

こちらからもご確認いただけます→[http://byl.bayer.co.jp/html/press\\_release/2014/news2014-11-25.pdf](http://byl.bayer.co.jp/html/press_release/2014/news2014-11-25.pdf)

## \*参考資料

- ・”Prevalence of Visual Impairment in the Adult Japanese Population by Cause and Severity and Future Projections” (Ophthalmic Epidemiology, 17(I), 50-57, 2010, Copyright 2010 Informa UK, Ltd.)によれば、変性近視は日本の中途失明原因の第2位です。
- ・2005年の網膜脈絡膜・視神経萎縮調査研究によれば、高度近視(強度近視)はわが国における視覚障害の原因疾患の第5位です。

## 参天製薬株式会社について

参天製薬は、眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域に特化した独自性ある医薬品企業として、人々の目とからだの健康維持・増進に寄与するために事業活動を行っています。目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それによって患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たして参ります。

参天製薬ホームページ：<http://www.santen.co.jp/>

## バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマケア、ラジオロジー&インターベンショナル(画像診断関連製品)、動物用薬品(コンパニオンアニマルおよび畜産用薬品)の4事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、ウイメンズヘルスケア領域、眼科領域の4領域に注力しています。バイエル薬品は、Science For A Better Life (よりよい暮らしのためのサイエンス)の企業スローガンのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。

バイエル薬品ホームページ：<http://www.bayer.co.jp/byl>

## バイエルの将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルグループもしくは各事業グループの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれています。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 ([www.bayer.com](http://www.bayer.com)) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。

**参天製薬の将来見通しに関する注意事項(Forward-Looking Statements)**

このプレスリリースにおいて提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(“Forward Looking Statements”)が含まれています。これらの見通しの実現できるかどうかはさまざまなリスクや不確実性に左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。また、日本ならびにその他各国政府による医療制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。

## ▼調査内容と目的

「近視の人の意識調査」

- 強度近視はどれだけ知られているか
- 病的近視 早期発見に重要な近視度数の把握と定期受診はいかほどか

## ▼実施概要

調査対象：近視用のメガネやコンタクトレンズを使用している全国の近視の人

有効回答：1,000名

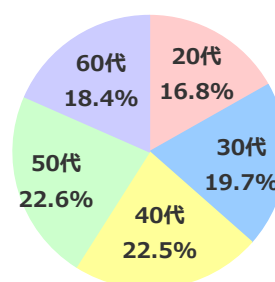
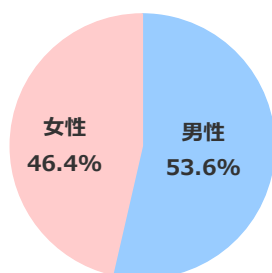
調査時期：2014年11月11日（火）～11月12日（水）

調査方法：インターネット調査

回答形式：すべて単一回答

## ▼回答者の属性

性別：男性536名、女性464名 年代：20代 168名、30代 197名、40代 225名、50代 226名、60代 184名

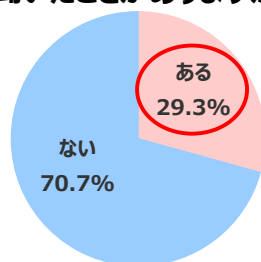


①

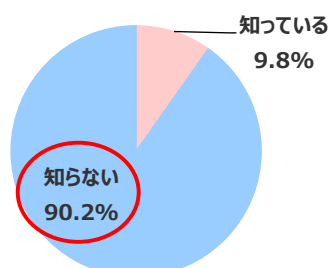
## ＜近視の人における強度近視の認知度＞

- 強度近視の知名度は 30%以下
- 90%以上の人々が、強度近視が失明の原因になりうるとは思っていない

## Q. 強度近視という言葉聞いたことがありますか？



## Q. 強度近視が、失明の原因になりうることを知っていますか？

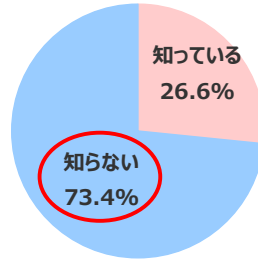


②

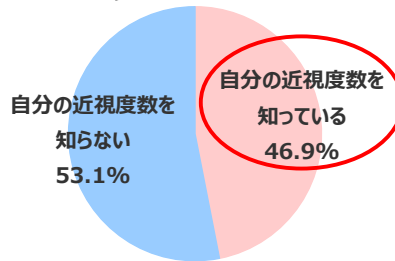
## <近視の人の近視度数への意識>

- 自分の近視の度数を把握していない人が 70%以上
- 強度近視の失明リスクを知っている場合は、自分の近視度数への意識高い

Q. 自分の近視の度数（メガネやコンタクトレンズの屈折率）を知っていますか？



▼強度近視が、失明の原因になりうることを「知っている」と回答した人の場合（n=98）

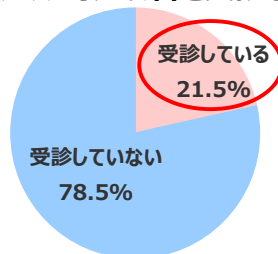


3

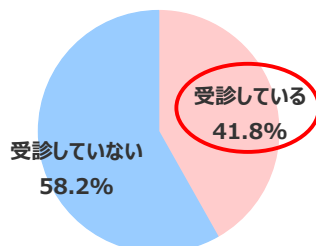
## <近視の人の眼科定期受診への意識>

- 近視のために定期的に眼科を受診している人はわずか 20%強
- 強度近視の失明リスクを知っている場合は、定期受診率も高まる

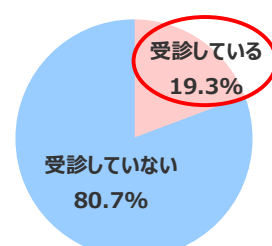
Q. メガネやコンタクトレンズの処方を受ける時以外に、近視を診てもらうために定期的に眼科を受診していますか？



▼強度近視が、失明の原因になりうることを「知っている」と回答した人の場合（n=98）



▼強度近視が、失明の原因になりうることを「知らない」と回答した人の場合（n=902）



4